

## 8. バングラデシュ

### 8.1 バングラデシュの基本情報

#### 8.1.1 廃棄物処理・3R関連情報

##### (1) 国家開発計画

バングラデシュでは 2005 年 10 月の国家経済評議会において、貧困削減戦略ペーパーを承諾した。同ペーパーでは、(1)雇用創出、(2)栄養改善、(3)質の高い教育、(4)ローカル・ガバナンス、(5)母子保健、(6)衛生と安全な水、(7)刑事司法制度、(8)モニタリングの 8 項目を戦略的課題に位置づけた。

2008 年の選挙管理内閣時に第二次 PRSP が策定され、新政権発足後、政権の方針に沿った形で 2009 年 12 月に改定が行われた。同改訂版第二次 PRSP における 5 つの戦略分野として、「貧困削減に資する経済成長のためのマクロ経済環境の安定」、「貧困削減に資する経済成長のための重点分野拡充」、「貧困削減に資する経済成長のための必須インフラ整備」、「社会的弱者に対する保障」、「人間開発」を掲げている。

2011-2015 年を計画対象期間とした第 6 次 5 カ年計画では、第 8 章「持続的発展に係る気候変動及び災害管理」の「第 6 次 5 カ年計画における気候変動に係るベンチマーク及び目標」において、「都市ごみの管理」が挙げられている。また第 9 章「実施計画：グッドガバナンス、管理、モニタリング、評価能力への取り組み」での「中核都市及び中小都市の第 6 次計画における目標及び戦略」にて「廃棄物管理の向上」が地方自治体の実施すべき戦略として定められている。

##### (2) 廃棄物処理法制度

日本の廃掃法（正式名称：廃棄物の処理及び清掃に関する法律）にあたる法律や、廃棄物管理に関するガイドラインなどは発達しておらず、一般廃棄物にかかる責任の所在や処理基準等については各地方自治体の条例に依拠する。一方で、特定の種類の廃棄物に関しては、法律、規則、戦略、アクションプランや政策などが作成されている。

加えて、3R 戦略策定の作業が、2008 年 12 月の開始会議と組織化と同時に、公式に開始され、2010 年に完了した。戦略では Waste Concern が、DoE-Bangladesh を支援しかつ戦略の起案において先導的な役割を担う国家共同センターの機能を果たす方向で進めることが示されている。

具体的な規制は、以下の通りである。

表 1 廃棄物管理に関連する規制

年	規制の内容
1995	バングラデシュ環境保護法 ✓ 廃棄物処置の標準を定めている

年	規制の内容
1997	バングラデシュ環境保護規則 ✓ バングラデシュ環境保護法の規則である
2006	鉛酸蓄電池のリサイクル及び管理に関する規則 ✓ この規則の下で鉛酸蓄電池の収集及びリサイクルが発展してきた
2006	肥料法 ✓ コンポストを奨励している。2008 年にはコンポストの標準が定められた
2008	医療廃棄物管理規則 ✓ この規則の下で医療廃棄物管理に関する新しい基準が政府によって定められてきた
2011	国家固形廃棄物管理取扱規制 ✓ 3R原則はこれらの規則に包含されている

出典：Waste Concern (2008), DoE-Bangladesh et.al.(2004)

Country Analysis Paper(Draft) BANGLADESH, Third Meeting of the Regional 3R Forum in Asia Technology

### (3) 廃棄物処理・3Rに関する中央政府や地方自治体の行政機関、関係団体等に関する情報

基本的には自治体が廃棄物処理を担当している。しかし、自治体に廃棄物管理のための十分な体制や能力が備わっていない点が課題となっていた。例えば、首都ダッカを中心とする首都圏人口が1,220万人を超え、廃棄物が増大しているにもかかわらず、市役所の実施体制が追いつかず、機材不足や住民の衛生意識の低さなどもあり、適切な廃棄物管理が行われていない状況であった。そうした状況に対しては、日本政府が継続的に支援を行ってきた。

ダッカ市が保有するゴミ収集車は老朽化が激しく、その更新のために、ダッカ市は清掃税に加えて一般財源からの予算も増加させていたが、ゴミ収集車更新のための多額の資金調達は目処がつかなかった。日本政府に対して無償資金協力の要請があり、2009年2月18日、日本政府とバングラデシュ政府は、12億1,500万円の環境プログラム無償資金協力によるダッカ市廃棄物管理低炭素化転換計画の実施を決定した。

また、コンポストについては、Waste Concern社のようなNGOが存在する。Waste Concern社は住民参加型の取り組みとして評価が高い。

参考資料：乙間 末廣（北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授）等、「開発途上国における住民参加型廃棄物収集システムの導入に関する調査・研究－バングラデシュチッタゴン市を例に－」、2007年7月

**(4) 廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測****<都市ごみ>**

都市部における都市ごみの発生量は、2005 年時点で 486 万トン/年、2009 年時点で 584 万トン/年である。また、それは 2025 年までに 1,720 万トン/年に達すると予測されている。

（出典：Waste Concern 2005, 2009）

収集率は、主要都市で 44.3%～76.47%となっている。（出典：Waste Concern 2005）

首都ダッカ市におけるごみの発生量は以下の通り。

2010 年 家庭ごみ 2382 トン/日、事業系ごみ 1283 トン/日、道路清掃ごみ 244 トン/日  
合計 3909 トン/日（出典：クリーン・ダッカ・マスタープラン JICA 2005 年）

**<産業廃棄物>**

7つの産業分野における産業廃棄物量は以下の通りである。廃水は 10947 万立方メートル/年、スラッジは 11.3 万トン/年、固形廃棄物は 26884 トン/年である。（出典：Waste Concern and ADB 2008）

また、DoE-Bangladesh、Waste Concern 及び ADB は、産業別の年間ごみ発生量を以下のように見積もっている。

表 2 産業廃棄物の発生量

年 産業		ごみ発生量	
		2008 年	2012 年
繊維産業（スラッジ）	トン/年	113,720	3,600,000
製革産業（固形廃棄物）	トン/年	20,500	34,212
農薬産業（固形廃棄物）	トン/年	53.58	68
肥料産業（固形廃棄物）	トン/年	277	334
石油精製産業	リットル/ 年	4,000	4,000

出典：DoE-Bangladesh, Waste Concern and ADB, 2008. A study of Hazardous Waste Management in Bangladesh

**<農業廃棄物>**

バングラデシュにおける農業廃棄物量は、6500 万トン/年である。（出典：Waste Concern and Swiss Contact 2007）

**<有害医療廃棄物>**

バングラデシュにおける有害医療廃棄物量は、2007 年時点で 12271 トン/年である。（出典：Waste Concern and ADB 2008）

〔出典〕 Country Analysis Paper(Draft)BANGLADESH, Third Meeting of the Regional 3R

Forum in Asia Technology

(5) 廃棄物の処理方法毎の処理量及びその総量並びにこれらの将来予測

関連情報入手できず

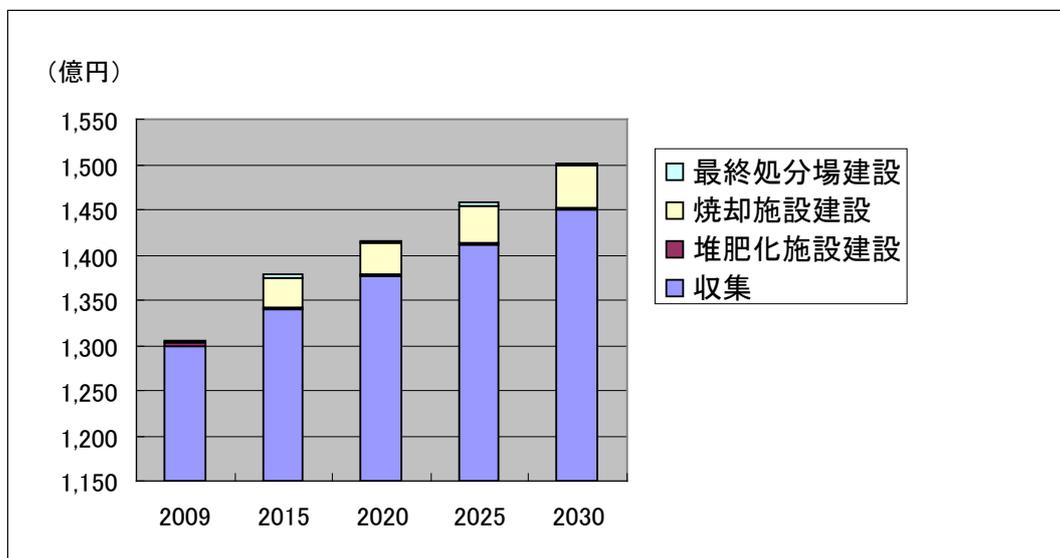
(6) 廃棄物処理・3Rに係るインフラ整備状況及びその将来予測

バングラデシュにおける、廃棄物のインフラ整備に関するデータは、現時点では入手困難である。

1. 廃棄物処理・3Rに係る市場規模及びその将来予測

<都市ごみ>

都市ごみに関する市場規模の推計を以下に示す。

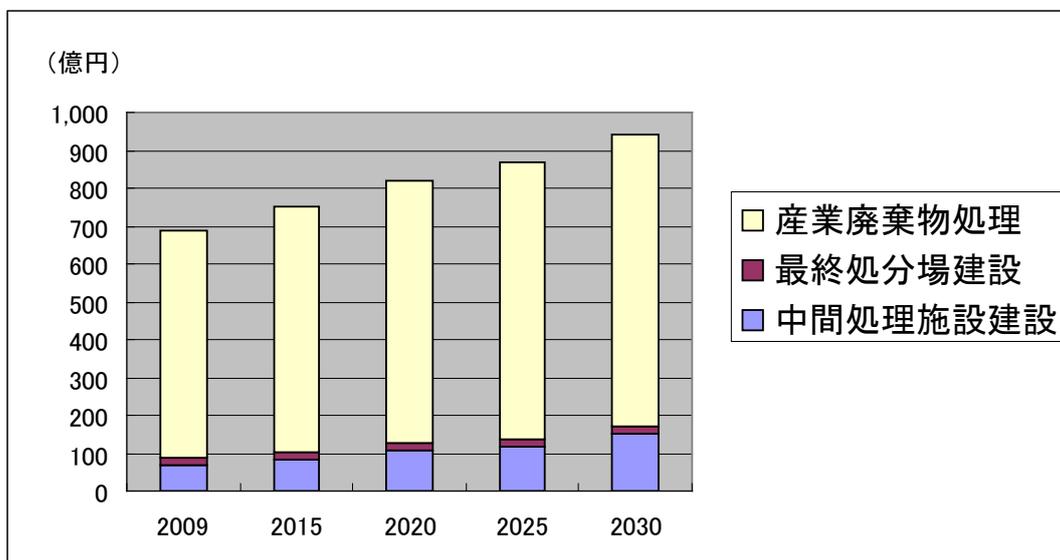


出所：環境省「平成 22 年度 3R 情報共有・技術移転・研究推進業務報告書」2012 年

図 1 都市ごみに関する市場規模の推計

<産業廃棄物>

産業廃棄物に関する市場規模の推計を以下に示す。



出所：環境省「平成 22 年度 3R 情報共有・技術移転・研究推進業務報告書」2012 年

図 2 産業廃棄物に関する市場規模の推計

(7) 廃棄物処理・3Rに係る企業の状況（企業数、業態、売り上げ等）

元々著名な NGO であった Waste Concern が利益部門も持つようになり、企業としての性格を帯びつつある。

(8) 廃棄物処理・3Rに係る人々の意識

関連情報入手できず

(9) 廃棄物処理・3Rに関するビジネス慣習

関連情報入手できず

(10) 日本の他省庁・関係団体の関連する活動

関連情報入手できず

(11) 廃棄物関連産業育成計画

関連情報入手できず

(12) 廃棄物処理・3Rに関する情報源情報

● 環境・森林省

住所：Building # 6, Level # 13 Bangladesh Secretariat, Dhaka.

Fax for Minister: +88-02-7160166

Fax for Secretary: +88-02-7169210

ウェブサイト：<http://www.moef.gov.bd/>

メールアドレス：[http://www.moef.gov.bd/html/Contact/contact\\_us.html](http://www.moef.gov.bd/html/Contact/contact_us.html) を参照

● 住宅・公共事業省

電話・FAX・メールアドレス：[http://www.mohpw.gov.bd/mohpw\\_contact.php](http://www.mohpw.gov.bd/mohpw_contact.php) を参照

ウェブサイト：<http://www.mohpw.gov.bd/>

● 駐日バングラデシュ大使館

住所：〒153-0063 東京都目黒区目黒 4-15-15

電話：(03) 5704-0216/8

FAX : (03) 5704-1696

ウェブサイト : <http://www.bdembjp.com>

メールアドレス : [bdembjp@yahoo.com](mailto:bdembjp@yahoo.com)

● ジェトロ・ダッカ事務所

住所 : Sharif Plaza 3rd Floor, 39, Kamal Ataturk Avenue, Banani, Dhaka

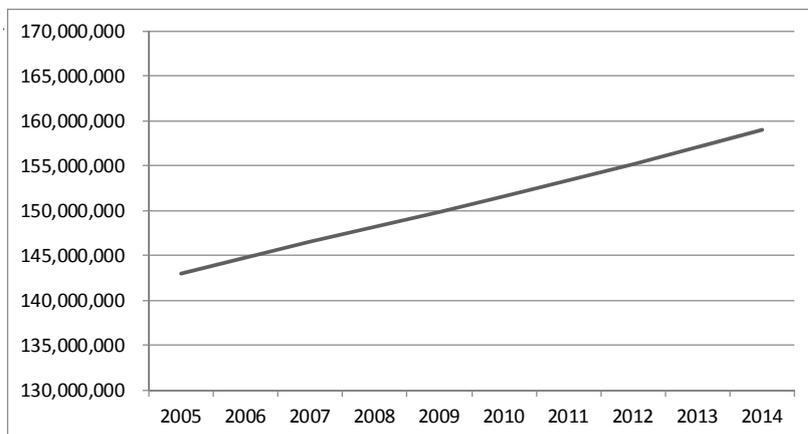
電話 : 880-2-8818222

FAX : 880-2-8818224

ウェブサイト : <http://www.jetro.go.jp/bangladesh/>

## 8.1.2 社会・経済の状況

## (1) 人口の経年推移（単位：人）

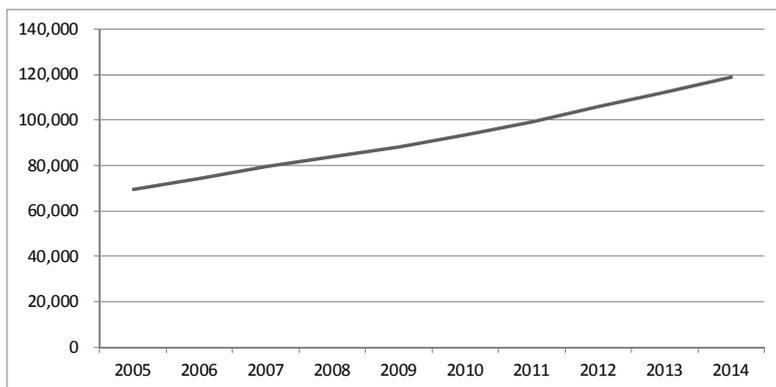


2005	142,929,979
2006	144,839,238
2007	146,592,687
2008	148,252,473
2009	149,905,836
2010	151,616,777
2011	153,405,612
2012	155,257,387
2013	157,157,394
2014	159,077,513

図 3 人口の推移

出典：世銀ウェブサイト <http://data.worldbank.org/indicator>  
 (最終アクセス日：2016年3月23日) グラフはMRI作成。

## (2) 国内総生産の経年推移（単位：百万 US\$）



2005	69,442,943,089
2006	74,076,084,772
2007	79,304,846,112
2008	84,074,072,826
2009	88,315,714,719
2010	93,236,491,720
2011	99,263,656,462
2012	105,737,071,374
2013	112,095,671,740
2014	118,889,894,714

図 4 国内総生産の推移

出典：世銀ウェブサイト <http://data.worldbank.org/indicator>  
 (最終アクセス日：2016年3月23日) グラフはMRI作成。

### (3) 産業構造

2008/09 年の GDP 構成で見た産業構造は、農・水産業が 20.6%、工業が 29.7%、サービス業が 49.7%となっており、2002/03 年に比べ農・水産業がマイナス 2.9 ポイント、工業がプラス 2.5 ポイント、サービス業がプラス 0.4 ポイントになっている。就業状況に関しては総就業人口 4,740 万人（2005/06 年）のうち農・林・水産業（漁業も含む）が 48.1%、製造業が 11.0%、その他 40.9%となっている。生産品は米、ジュート、茶および魚介類といった 1 次産品が中心であったが、1980 年代後半から、既製服や化学肥料といった工業製品が増加した。

主要輸出品は工業製品の既製服とニットウェア（この 2 品目で輸出の 75.8%を占める。2007/08 年度）、ジュート製品、皮革製品、化学製品のほかに、1 次産品の冷凍食品である。

#### 産業別 GDP 構成（1995/96 年価格）

[単位：%]

	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09
農・水産業	21.8	21.4	20.8	20.6
農林業	17.0	16.6	16.2	16.0
農作物・園芸	12.3	12.0	11.6	11.6
畜産	2.9	2.9	2.8	2.7
林業	1.8	1.8	1.8	1.8
漁業	4.8	4.7	4.7	4.6
工業	29.0	29.4	29.7	29.7
鉱業	1.2	1.2	1.2	1.3
製造業	17.1	17.6	17.8	17.8
中・大規模企業	12.1	12.5	12.6	12.6
小規模企業	4.9	5.1	5.1	5.2
電気・ガス・上下水道	1.7	1.6	1.6	1.6
建設業	9.2	9.2	9.1	9.1
サービス業	49.2	49.2	49.5	49.7
卸売・小売	14.2	14.2	14.4	14.4
ホテル・レストラン	0.7	0.7	0.7	0.7
運輸・倉庫・通信	10.1	10.2	10.4	10.6
陸運	6.7	6.5	6.4	6.4
通信	2.1	2.4	2.8	3.0
金融・保険	1.7	1.8	1.8	1.8
不動産・賃貸	7.9	7.6	7.5	7.4

行政・国防	2.7	2.8	2.8	2.8
教育	2.5	2.5	2.6	2.6
保健・社会活動	2.3	2.3	2.3	2.4
社会・個人サービス	7.3	7.1	7.0	6.9
合計 (GDP)	100.0	100.0	100.0	100.0

注：2008/09 は暫定値

出典：Bangladesh Bank, Annual Report 2008/09

〔出典〕ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』

#### (4) 物流

バングラデシュの運輸、通信網は劣悪な状況にあり、このことがバングラデシュの経済開発を遅らせている原因の一つと言われていたが、近年、状況は幾分改善されてきている。特に 1998 年には、中央部を縦に走るジャムナ河にも 4.8km に及ぶ大橋が架けられ、東西の交通が容易になったことの効果は大きい。

##### <道路・内陸水運>

2009 年 6 月現在、道路・ハイウェイ局データによると、同局が管理する道路網は総延長 2 万 948km に達する。道路区分は国有自動車道路 (National Highway) が 3,478km、地方自動車道路 (Regional Highway) が 4,222km で、残り 1 万 3,248km が支線となっている。道路のほか、道路・ハイウェイ局では道路関連施設として 4,507 の橋梁、1 万 6,751 の暗渠、60 のフェリー渡場 (153 艘のフェリー) を管理している。2008/09 年の開発予算は 428 億タカで、開発プロジェクトは 115 件に達する。なお、農村道路は地方行政官庁が管理している。

内陸水運は従来、全貨物輸送の 3 分の 2 を担う重要な輸送手段とされていたが、近年は河川航行性の劣化、河川管理担当機関の機能低下、道路輸送を主とする他の輸送手段の普及などから、以前ほどに重要ではなくなってきている。それでも、内陸水路網は国内全土を結ぶ重要な輸送ネットワークであることには変わりない。特に水路以外に頼れる輸送方法がない農村部での役割は極めて大きい。水運業務に携わっている組織は民間経営のものも含めて数多く存在するが、最大の組織は国有の「バングラデシュ内陸水運公社 (Bangladesh Inland Water Transport Corporation: BIWTC) である。BIWTC は現在 189 の船舶を保有、それによって内陸顧客サービス、沿岸顧客サービス、フェリー・サービスおよび貨物運搬サービスを行っている。ただ、これら船舶の大半が老朽化しているため、修理や維持管理コストが大きな負担になっている。

##### 内陸水運

〔単位：100 万タカ〕

	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09
収入	1,216.1	1,340.5	1,475.4	1,579.7	1,705.4
支出	732.0	855.7	991.0	1,102.3	1,293.8
営業利益	484.1	483.2	484.4	477.4	411.6
金利・減価償却	219.1	213.0	201.0	192.4	183.0
収支	265.0	271.8	283.4	285.0	228.6

〔出典〕 Economic Review 2008/09

#### <鉄道>

鉄道輸送は他の輸送手段、特に道路との競合により輸送量、総延長ともに伸びていないが、2008/09 年度時点での総延長距離は 2,835km である。鉄道の悩みは、経営が悪化しているからといっても、鉄道にしか頼れない地域もあって、路線の廃止は簡単ではないが、経営改善に向けて人員削減（5 万 8,000 人から 3 万 5,172 人へ）や不採算路線の廃止に取り組むとしている。

#### 鉄道利用状況

	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09
旅客輸送（100 万 km）	4,164.1	4,387.5	4,586.0	5,609.2	6,502.9
貨物輸送（ 〃 ）	816.8	820.5	775.6	869.6	800.2
収入（100 万タカ）	4,456.2	4,442.7	4,527.6	5,616.4	6,253.5
支出（ 〃 ）	6,950.9	8,147.3	9,331.3	10,885.	13,054.
				5	0

〔出典〕 Economic Review 2008/09

#### <海港>

最も重要な海港はチッタゴン港とモングラ（Mongla）港である。その他には内陸にダッカ港がある。ナラヤンガンジ（Narayanganj）、チャンドゥプール（Chandpur）、バリサーール（Barisal）およびクルナ（Khulna）にも港がある。チッタゴン港が最大で 2008/09 年のデータでは輸出入貨物の 92% を扱っている。チッタゴン港の長所は道路、鉄道、河川および鉄道へのアクセスがよいことである。コンテナ取扱も年々増えており、2008/09 年の営業収入は 112 億 6,980 万タカ（前年比 6.6% 増）、支出が 50 億 2,650 万タカで、余剰金は 62 億 4,330 万タカであった。

モングラ港はダッカにおける輸出入貨物の 4 分の 1 を扱っており、全輸入貨物の 8%、全輸出貨物の 13% を扱っている。2008/09 年の営業収入は 5 億 2,300 万タカ（前年比 29.8% 増）、支出が 5 億 9,580 万タカ（9.5% 増）で、収支は 7,280 万タカの赤字だったが、前年の 1 億 4,130 万タカの赤字から大幅に縮小した。

#### <空輸>

バングラデシュのナショナル・フラッグはバングラデシュ・ビーマン航空（国有企業）である。同社の保有機数は 15、海外 18 都市、国内 3 都市間でフライトサービスを行っている。同社は 2006 年にニューヨーク、パリ、フランクフルト、成田など 7 路線を、2007 年にはマ

ンチェスター線を保有機数の減少を理由に廃止している。

2004/05 年は燃料価格が 2004 年 1 月のリッター当たり 0.29 ドル（ダッカ）、0.22 ドル（チッタゴン）から期末にはリッター当たりそれぞれ 0.43 ドル、0.42 ドルに上昇、収益を圧迫した。その後も燃料価格は上昇を続け、2008 年 6 月にはリッター当たりダッカで 1.25 ドル、チッタゴンで 1.24 ドルにまで上昇した。2009 年 1 月、燃料価格はダッカで 0.56 ドル、チッタゴンで 0.55 ドルと沈静化した。同年 6 月には再び上昇基調となっている。

#### Biman 航空の営業状況

	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08
営業収入	24,537.9	26,537.3	24,636.7	29,794.2
営業経費	26,454.5	31,084.4	27,358.4	29,735.1
最終収支	△1,916.6	△4,547.1	△2,721.7	59.1

〔出典〕 Economic Review 2008/09

〔出典〕 ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』

## (5) 商習慣

### <労働事情>

政府による労働力調査（2006 年）によると、15 歳以上の就業者数は 4,740 万人で、男女別には男性が 3,610 万人、女性が 1,130 万人であった。前回調査（2003 年）では就業者数 4,430 万人（男性が 3,450 万人、女性 980 万人）で、この 3 年間で男性が 4.6%伸びたのに対し、女性は 15.3%の大幅な伸びとなっている。女性の就業者数が増えたのは、実質 GDP 成長率が 2002 年の 4.4%、2003 年の 5.3%に対し、2004 年が 6.3%、2005 年が 6.0%、2006 年が 6.6%と好調だったこと、衣料産業の活発化により女性の就業機会が増えたことなどが背景となっている。

就業形態は、自己雇用者（Self-employed）ないし自己勘定労働者（Own Account Workers）が 42%、日雇労働者（Day Laborer）が 18%、被雇用者（employee）が 14%、賃金支払いのない家族補助者（Unpaid Family Helper）が 22%、その他 4%となっている。また、産業、業種別には農林水産業が 48.1%、鉱業が 0.2%、製造業が 11.0%、電気・ガス・水道が 0.2%、建設が 3.2%、卸売・小売およびホテル・飲食店が 16.5%、運輸・倉庫・通信が 8.48%、金融仲介業が 1.5%などとなっており、傾向としては製造業、商業、運輸・倉庫・通信、金融仲介業が増加している。一方、15 歳以上の非労働力人口約 3,400 万人のうち 80%以上が女性であるが、その大半は家事労働に従事している。

失業率は、政府発表では 2003 年が 4.3%、2006 年が 4.2%となっているが、この数字は実態とは大きくかけ離れており、失業率は 25%を超えているというのが一般的な見方である。

また、2006 年以降、海外への出稼ぎ労働者も急増している。海外労働者は 2004/2005 年に前年比 9.7%減の 25 万人となったが、2005/2006 年には 16.4%増の 29 万人、2006/2007 年はほぼ倍増の 56 万人、2007/2008 年では 98 万人が海外へ出稼ぎに出ている。2008/2009 年

の送金額は 79 億 1,478 万ドルに達しており、GDP の 11.0%、輸出額の実に 62.3%に相当する。

#### <賃金事情>

バングラデシュの給与、賃金水準は総じて低いものの、確実に上昇している。2008/09 年に統計局がまとめた賃金率指数によると、上昇率は前年比 18.9%と大幅な上昇となった。農村部でも都市部でも消費者物価上昇率を上回った。業種別には、製造業は前年度の 11.0%の上昇から 19.1%増、建設業および農業の伸び率はそれぞれ 23.0%、22.5%と前年伸び率の倍増となった。

#### 《衣料産業》

衣料産業の賃金に関しては、2006 年の見直しで最低賃金が 1,662 タカ（約 23.7 ドル）に改定されて以降 4 年間据え置かれており、2010 年に入って賃上げを求めるデモが頻発している。首都ダッカの北方約 20km にあるアシュリア地区では 2010 年 6 月に数千人の労働者によるデモが発生、一部が工場施設を破壊するなど暴徒化し、賃上げを求めるデモはダッカ周辺にある工場集積地に拡大した。政府は治安部隊を投入して、デモを力づくで押さえ込む一方、7 月 29 日には縫製工場（輸出加工区を除く）の労働者に対する最低賃金を 3,000 タカ（約 42.7 ドル）に引き上げると発表した。引き上げ額は 80.5%と大きい。バングラデシュ開発経済研究所では、経済成長率、物価上昇率を勘案した実質値では 44.4%にとどまっており、4 年ぶりの改定としては十分なレベルに達しているとは言えないとしている。労働側では裁定でも 5,000 タカ（約 71.2 ドル）への引き上げを要求しているが、衣料産業の活況が豊富な低賃金労働者によって支えられていることから、経営側では製造業全体の最近の大幅な上昇を懸念しており、今後の成り行きが注目される。

なお、バングラデシュの衣料産業が急成長している背景には、中国に全面依存するリスクの分散のため「チャイナ+1」として、安価な労働力を求めてベトナムやパキスタン、バングラデシュなどへの生産拠点設置があった。特に、バングラデシュは一般工職の月額給与が 47.2 ドル（ダッカ）で、ベトナムの 85.6 ドル（ダナン）、パキスタンの 135.8 ドル（カラチ）、インドネシアの 147.7 ドル（ジャカルタ）などと比べて格段に低い（金額はジェトロ投資コスト比較 2010 年 1 月より）。

#### 《公務員給与の改定》

2009 年 12 月、政府は公務員の月額給与を 2005 年 1 月以来、4 年半ぶりで引き上げると発表した。公務員は 20 階級に区分されるが、引き上げで最低月額が 2,400 タカから 4,100 タカ（約 58.4 ドル）、中間の 10 階級では 5,100 タカから 8,000 タカ（約 113.9 ドル）、最高階級で 2 万 5,000 タカから 4 万タカ（約 569.6 ドル）となり、5 割以上の引き上げとなった。この引き上げ理由として、改定前の最低クラス月額 2,400 タカでは首都ダッカで生活できるレベルではないといった実態との乖離や、汚職防止の観点から公務員給与の引き上げを求める声が上がっていたことがあった。

#### <会計年度>

7月1日～翌年6月30日

〔出典〕ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』

**(6) 生活習慣****<言語>**

公用語はベンガル語（国民の 85%が使用）、その他はビハリ語、ヒンディ語、ウルドゥ語、英語（商用語として広く使用される）。1982 年の新教育政策でアラビア語、英語の義務化を図っている。1987 年 2 月 26 日、公用文書でベンガル語使用を義務づける「Introduction of Bangla Language Law 1987」が国会で可決され、即日公布された。但し、外国関係文書については例外としている。

**<宗教>**

イスラム教 89.5%、ヒンズー教 9.6%、その他 0.9%（2004 年）。1988 年 6 月、政府は憲法を改正し、イスラム教を国教とすることを宣言している。

**<祝祭日>**

移動祝祭日	犠牲祭（3日間）	イスラム教の祭り、2月。
2月21日	ベンガル語国語化運動記念日	
移動祝祭日	アーシュラー	
3月26日	独立記念日	
3月14日	ベンガル新年	
5月1日	メーデー	
移動祝祭日	仏誕祭	仏教の祭り、5月
移動祝祭日	ムハンマド生誕祭	イスラム教の祭り、5月。
移動祝祭日	クリシュナ・ジャンマシュタミ	ヒンドゥー教の神クリシュナの聖誕祭、8月
移動祝祭日	ドゥルガー・プージャー	女神ドゥルガーを讃えるヒンドゥー教の祭り、9月下旬
移動祝祭日	シャベ・バラット	イスラム教の祭り。断食月前の祭り。
11月7日	革命連帯記念日	1975年のジアウル・ラーマンのクーデターによる政権掌握を記念
移動祝祭日	シャベ・カダール	イスラム教の祭り。断食月の第27夜。
移動祝祭日	ジャマトゥル・ビダ	
移動祝祭日	断食月明け大祭（3日間）	イスラム教の祭り。
12月16日	戦勝記念日	パキスタン軍降伏を記念
12月25日	クリスマス	

〔出典〕ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』

**(7) 生活水準、平均年収****<月額賃金（ダッカ）>**

〔単位：米ドル〕

ワーカー（一般工職）	54
エンジニア（中堅技術者）	125
中間管理職（課長クラス）	428
スタッフ（一般職）	351
マネージャー（課長クラス）	1,079
店舗スタッフ（アパレル）	49～135
店舗スタッフ（飲食）	28～181

〔出典〕JETRO 投資コスト比較 <http://www.jetro.go.jp/world/search/cost/>（最終アクセス日：2011年6月21日）表は筆者作成。

<平均年収>

GNI per capita (atlas.) US\$ 580 (2009)

〔出典〕世銀ウェブサイト <http://data.worldbank.org/indicator>（最終アクセス日：2011年6月21日）

#### (8) 歴史（廃棄物、環境問題等に関わるもの）

関連情報入手できず

#### (9) 廃棄物処理・3R事業を行う上での各種規制（環境規制、建築規制、物流規制）

<環境規制>

環境規制には、以下のような法律がある。法律の執行は環境省によってなされている。

- ① Water Pollution Control Ordinance, 1970  
水質汚濁対策のための法律である。
- ② The Environment Pollution Control Ordinance, 1977  
環境汚染をコントロールするための法律である。
- ③ Environment Conservation Act, 1995  
環境保全、環境基準の向上や環境汚染のコントロールのための法律である。
- ④ The Environment Conservation Rules, 1997  
③の規則である。
- ⑤ The Environment Court Act, 2000  
環境裁判所の設立についての法律である。

〔出典〕Ministry of Environment and Forests

< 建築規制 >

バングラデシュにおける建築基準関連の法律や規則は以下の通りの推移を経て形成されてきた。

① Building Construction Act 1952

セットバックや建物の高さなど基本的な内容を定めた法律である。

② The Town Improvement Act (TI), 1953

プランニング・アプローチの必要性を認識し、開発事業のための特別な機関を創設することを決めた法律である。

③ Bangladesh National Building Code (BNBC)

1993 年に、バングラディッシュ全国に共通する建築基準を定めたものである。2006 年の改正によって、18A が加わったため、BNBC は法的拘束力を持つようになった。

また、エネルギー効率の基準を定めるなどして、エネルギー効率やパッシブエネルギーについて規定をしている。例えば、2020 年までに建物におけるソーラーエネルギー利用率を 10% から 20% に増やすという目標を掲げている。

④ Land Development Rules for Private Housing 2004

プライベートセクターの住宅建設における土地開発を管理する目的で定められた規則である。

⑤ Building Construction Rules 2008

1984、1996 年と何度も改正されている建築基準に関する規則である。

〔出典〕Salma A. Shafi 「Keynote Paper on National Building Code and Its Implementation」2010 年

Country Analysis Paper(Draft)BANGLADESH, Third Meeting of the Regional 3R Forum in Asia Technology

## 8.2 バングラデシュの情報源情報

バングラデシュの情報源情報について、以下に示す。

	情報内容	情報源	媒体	URL・書籍名	備考
(1) 廃棄物処理・3R 関連情報	①廃棄物処理・3R 制度	Waste Concern (2008)	新聞・書籍		
	①廃棄物処理・3R 制度	DoE-Bangladesh et.al.(2004)	新聞・書籍		
	①廃棄物処理・3R 制度	Country Analysis Paper(Draft)BANGLADESH	新聞・書籍		
	①廃棄物処理・3R 制度	Third Meeting of the Regional 3R Forum in Asia Technology			
	②廃棄物処理・3R に関する中央政府や地方自治体の行政機関、関係団体等に関する情報	乙間 末廣（北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授）等、「開発途上国における住民参加型廃棄物収集システムの導入に関する調査・研究－バングラデシュ チッタゴン市を例に－」、2007 年 7 月	新聞・書籍		
	③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	Waste Concern 2005, 2009			
	③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	クリーン・ダッカ・マスタープラン JICA 2005 年			
	③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	Waste Concern and ADB 2008			
	③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	DoE-Bangladesh,Waste Concern and ADB,2008. A study of Hazardous Waste Management in Bangladesh	新聞・書籍		
	③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	Waste Concern and Swiss Contact 2007			
③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	Waste Concern and ADB 2008				

	③廃棄物の種類毎の発生量及びその総量並びにこれらの将来予測	Country Analysis Paper(Draft)BANGLADESH, Third Meeting of the Regional 3R Forum in Asia Technology	新聞・書籍		
	④廃棄物の処理方法毎の処理量及びその総量並びにこれらの将来予測	環境省資料(三菱総合研究所)による推計	新聞・書籍	平成 22 年度 3 R 情報共有・技術移転・研究推進業務報告書	
	⑤ 廃棄物処理・3 R に係るインフラ整備状況及びその将来予測	環境省資料(三菱総合研究所)による推計	新聞・書籍	平成 22 年度 3 R 情報共有・技術移転・研究推進業務報告書	
	⑥ 廃棄物処理・3 R に係る市場規模及びその将来予測	環境省資料(三菱総合研究所)による推計	新聞・書籍	平成 22 年度 3 R 情報共有・技術移転・研究推進業務報告書	
(2) 社会・経済の状況	①人口の経年推移	世界銀行統計データベース	Web ページ	databank.worldbank.org/	
	②国内総生産の経年推移	世界銀行統計データベース	Web ページ	databank.worldbank.org/	
	③産業構造	Bangladesh Bank, Annual Report 2008/09	新聞・書籍		
	③産業構造	ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』	新聞・書籍		
	④物流	Economic Review 2008/09	新聞・書籍		
	④物流	ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』	新聞・書籍		
	⑤商習慣	ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』	新聞・書籍		
	⑥生活習慣	ARC 国別情勢研究会『ARC レポート バングラデシュ 2010/11』	新聞・書籍		
	⑦生活水準、平均年数	JETRO website	Web ページ	http://www.jetro.go.jp/world/search/cost/	

⑦生活水準、平均年数	世界銀行 website	Web ページ	<a href="http://data.worldbank.org/indicator">http://data.worldbank.org/indicator</a>	
⑨廃棄物処理・3R 事業を行う上での各種規制（環境規制、建築規制、物流規制）	Ministry of Environment and Forests			
⑨廃棄物処理・3R 事業を行う上での各種規制（環境規制、建築規制、物流規制）	Salma A. Shafi 「Keynote Paper on National Building Code and Its Implementation」 2010 年	新聞・書籍		
⑨廃棄物処理・3R 事業を行う上での各種規制（環境規制、建築規制、物流規制）	Country Analysis Paper(Draft)BANGLADESH, Third Meeting of the Regional 3R Forum in Asia Technology			